研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-163	A-190	17-078	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Sexual orientation identity and tobacco and hazardous alcohol use: findings from a cross-sectional English population survey.

性的指向性の識別とたばことアルコール使用障害：英国の横断的調査結果

執筆者

Shahab L, Brown J, Hagger-Johnson G, Michie S, Semlyen J, West R, Meads C.

掲載誌

BMJ Open. 2017 Oct 25;7(10):e015058. doi: 10.1136/bmjopen-2016-015058.

キーワード	PMID
LGB、タバコ使用、疫学、アルコール使用障害、性的指向性	29074508

要　旨

目的：

タバコとアルコール使用障害、性的嗜好との関連性およびそのような関連性が他の社会人口学的特徴によって説明できるかどうかを評価すること。

方法：

2014 年から 2016 年に行われた英国イングランド地方の世帯横断調査（43,886 人）を解析した。主なアウトカムは性的指向性（バイセクシュアル、同性愛者（レズビアン/ゲイ）、異性愛者、回答拒否）、現在のたばことアルコール使用障害（アルコール使用障害識別テストスコア 8 以上）で、すべての結果は自己報告された。性的指向性と物質使用のための性別との相互作用により、分析は性別によって層別解析が行われた。

結果：

性別にかかわらず、タバコの使用は異性愛者と比べて 2 倍近い喫煙率を示した（p<0.001 for omnibus test）。レズビアン/ゲイ（女性 24.9%，95%CI：19.2%～32.6%，男性 25.9%,95%CI：21.3%～31.0%）およびバイセクシュアル（女性 32.4%,95%CI：25.9%～39.6%，男性 30.7%, 95%CI：23.7%～30.7%）、異性愛者（女性 17.5%, 95%CI：17.0%～18.0%，男性 20.4%，95%CI ：19.9%～21.0%）。タバコ使用と同様に、アルコール使用障害も性別で異なっていた（p<0.001 for omnibus test）。レズビアン/ゲイ（女性 19.0%，95%CI：14.0%～25.3%，男性 30.0%，95%CI：25.2%-35.3%）、バイセクシュアル（女性 24.4%，95%CI：18.7%~31.3%，男性：24.3%，95%CI：17.9%~32.1%）、異性愛者（女性：4.1%，95%CI：3.0~5.4%，男性 18.4%，95%CI：17.9%～18.9%）。しかし、社会人口学的交絡要因を調整した後、タバコの使用は、男性と男性のすべての性的 指向性グループで同様の結果となった。対照的に、アルコール使用障害の性的指向性の差は、女性の調整後でもバイセクシュアルとゲイの男性では変わらなかった。

結論：

イングランドでは性的少数者の男性と女性のタバコ使用率が高くなることは、他の社会学的要因に起因すると思われる。性的少数派男性の危険なアルコール使用率の上昇は、これらの要因に起因する可能性があるが、これは性的少数派女性の場合には当てはまらない。